



冬を待つ森で…

つい最近まで紅葉の赤や黄色に彩られていた森も、落葉した木立が目立つようになり、いよいよ冬を待つだけといった雰囲気が漂い始めました。こうなると、物寂しい気もするのですが、グリーンシーズンには見えなかったものがみられたり、これまでにはなかなか目にとまらなかったものに注目できたりもします。

その一つが、桧原湖の眺めです。グリーンシーズンは、桧原湖付近の探勝路を歩いていると、桧原湖をみられないことがほとんどでした。ところが今では、木立の隙間から桧原湖がよく見えるようになっています。冬木立と、モノトーンの桧原湖の景色は、どことなく哀愁の漂う味わい深いものに感じます。



▲モノトーンな桧原湖の眺め

また、落葉樹が葉を落とした今では、青々とした葉を持つ常緑の草や木が存在感を放っています。さらに真っ赤な実をつけているものは、色の少ない森のなかで、ひときわ目を引きまします。地面を覆うように生えているのは、つる性のツルアリドウシ。深緑色の小さな葉の茂みのなかに、丸い赤い実をたくさん実らせています。春に小さな白い花を咲かせていたミヤマシキミにも、立派な赤い実がたくさんついていました。春からこんなにも長い時間を経て、やっと実が赤く熟すということに驚かされました。

冬を待つ森の静かな空間のなかで、桧原湖の眺めと森の赤い宝石探しをじっくりと楽しみました。



ツルアリドウシ



ミヤマシキミ

🍀 とっておき！自然発見メモ 🍀

自然解説員が自然のなかでみつけたとっておきの情報をおすそわけします！

11月5日



コマダラウスバカゲロウの幼虫

アリジゴクにそっくりです。体に地衣類をつけて擬態しています。大顎を開き待ち伏せし、やってきた昆虫などを食べます。

11月12日



ハシビロガモ

名前の通り、くちばしが扁平で幅広です。水面にくちばしをつけてエサを食べている姿が、なんだかかわいいです。

11月12日



オオタチツボスミレ

本来の花の時期は4~6月なのですが、なぜか咲いていました。最近の暖かさで春と勘違いしてしまったのでしょうか。